

---

# 我思うところ。

河灯 良平

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

我思うところ。

### 【Nコード】

N4830D

### 【作者名】

河灯 良平

### 【あらすじ】

私は目を覚ました。いつもと変わらぬ一日だが、私には不満の数々が存在する。我思うところを綴っていないか……

私は暖かい空気に包まれ、目を覚ました。

最近、めつきり寒くなってきた。私はこたつの中で丸くなって、寝てしまっていたようだ。

それではまるで猫のようだった？

ご名答、いかにも私は猫なのである。

こたつ布団のから顔を出し、ふあと欠伸をする。と同時に私の気管に、冷たくも新鮮な空気が流れ込んできた。

こたつの中の空気は、喉がもごもごしてしまう。どうも、人間は我々猫がこの中に入ることを、考えていないようだ。これは立派な猫差別であろう。

ちなみに猫差別は、最近、夜の集会で頻繁に議論されている内容であり、一種のムーブメントになっているのだ。

まあ、君たちに話しても、意味のないことだ。

猫は猫。人間は人間。両者は共存しているようで、分かり合う事はできぬものなのだから。

どうやら、今はこの家にいるのは、主である私だけであるようだ。私は、洗面所に颯爽と移動した。そして後ろ脚に力を込め、ふわっと、洗面台に飛び乗った。

鏡には、美しい三色の毛並みで、大きなぱちりとした眼を持ち、すつと伸びた輝く髭を持つ、美しい猫が映っている。

それはもちろん、私である。

以前、この家の娘が、自分の顔に絵具を塗りたくっていたのを、目撃したがあれはまるで道化の様であった。生物は生まれ持ったままの姿形が、一番美しいという事を人間は知らないようだ。

しかし、この家の母は絵具を塗ろうが、塗っていないかろうが、直視できたものではないが……

いささか眠りすぎたようだ、私の腹時計がそのように言っている。

窓の方に、視線をやると綺麗な夕焼けが見えた。この様に自然を美しいと、感じられるのは感受性豊かな猫だけであろう。

人間とは全くもって、可哀そうな生き物である。

洗面台から飛び降り、今度は台所に移動する。台所の隅に、私専用の食事用特別場所が設けられている。

皿の中に入っている、少し硬めのフレークを食べる。味はいまいちだが、私は健康に気を付けているため、栄養をバランスよく摂取できる、この食事を続けている。

人間は栄養バランスなどを考えず食べるそうではないか。

食事をしていると、この家の娘が帰宅した。

どうやら、一人ではないようだ。

確認すべく、玄関へ走る。

なぜなら、私はこの家の主であるからだ。この家の状況を把握する責任は、私にあるのだ。

娘の横にいたのは、一人の男であった。どうやら、間抜けそうな顔を見たところ、大して害はなさそうだ。

男は無礼にも、私を掴もうとしてきたので、その手を引っ搔いてやった。

いつも人間は何かと、私に触りたがる。私が美しいが故なのだろうが、あまりにも無礼である。

人間に教養というものを求めても、無駄なことぐらい理解しているので、もう一度引っ搔いて台所へ引き返した。

ふと、見ると外は薄暗くなっていた。

大変である。

そろそろ、集会が始まるではないか。今日は猫曜日では、いわし曜日に当たる曜日であり、毎週、隣の長老猫が講演する事になっているのだ。

私は、ドアの前で数回娘に向かって、開けるように叫び、ドアを開けさせた。

ドアの隙間から、娘の顔が見える。心配するのわかるが、今日

も猫差別について、話し合わなくてはならないのだ。猫は忙しい。  
なんだかんだ言っで、私は彼らとともに生活することがこの上な  
く、気に入っている。

この家に帰ると、いつも心が和み、ここが私のいるべき場所だと  
確認できる。

そして、家族を見ると安心し、なんの気兼ねもなく毛づくろいが  
できる。

娘よ、留守は任せたぞ。

そして、私は薄暗闇を駆けていく。

（後書き）

今回は視線の角度を変えて、書きました。

と言っても猫の視線ですが……

我々とは違う猫の視点で、人への風刺も込めて書いたつもりです。  
はたして猫がこのように考えているかは、いささか疑問ですが……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4830d/>

---

我思うところ。

2010年10月21日20時12分発行